

校長研修だより111

「先生、僕ユーチューバーになります」

2023・6・28 重枝 一郎

年度初めの研修会で、「本校は、キリスト教主義の学校でもあるので、日本と世界のいいとこ取りの教育をしていく」と話した。世界のいいところは、「自分は何者なのか」を気づかせる教育である。マインドを育てる教育である。それは本校のシンボルワードである「大切なひとり」につながる。そういう「大切なひとり（生徒）」と先生方は進路について話し合う。先生方は、生徒にとってよりよい進路相談になるようがんばっている。

ある話を聞いた。

夏を迎えた高3のある生徒の話である。この生徒は、大学進学を目指していた。ところが夏休み前の面談で突然進路を変更したいと言い出した。「先生、やりたいことを見つけました。ユーチューバーになります。だから大学進学はどっちでもいいかなって思うんですけどどう思いますか？今から動画投稿の方に専念した方がいいでしょうか？」「（先生）・・・」

私たち教師は、「成功できるかどうかは本人次第」と思いつつ、異業種、ましては新しい業種についての理解は追いついていないのが正直なところだと思う。頭の中は、「成功するのは一握りの世界」「生計は立てられるのか」「でも頭ごなしに反対して芽を摘むのは、本人の幸せになるのか」「大学に進学しないと就職は厳しい」など、頭の中で心配は駆け巡る。どのような指導が、この生徒にとってよりよい人生を歩むことにつながるのか悩む。教師は、短絡的に一時の流行に乗っているだけではないか心配になったり、長く続けられる仕事に就いてほしいと思ったりする。しかし、終身雇用がすべてである時代は終わっている。

私にも二人の娘がいる。二人の進路について口を挟んだことはない。下の娘がある企業に就職するとき、私は、「どんな会社なの？」と質問したことがある。娘からの返事は「お父さんに言ってもたぶんわからんよ。だってお父さんは先生しかしたことないやろ」。「（私）・・・」。珍しく私はしつこく聞いてみた。「試しにちょっと説明してみて」。娘は説明を始めたが、よくわからなくて、私は10秒くらい聞いて「もういい」と言って笑ってごまかした（笑）。

話を戻すが、このユーチューバーになりたいと言った生徒に、教師は、なぜなりたいと言いだしたのかという本人の思い・考えを聞く必要はある。でも、おそらく私たちは、心配からは抜け出すことはできない。もしかしたら教師の考えの中に、一時的な流行に乗ったら、のちに必ず大変な目にあうという人生訓のような考えがあるからかもしれない。果たしてそれは必ずそうなのだろうか。一度転んでも再び立ち上がることができる力があれば、その先の人生でたくましく生きていけることもある。

ところで、私たちはこれまで多くの生徒の進路指導をしてきて、逆に「不安を感じない生徒」ってどんな生徒だったのだろうかと思う。もしかしたらその生徒の考え方・人間力ではなく、冒険をしない無難な進路選択をしている生徒に対して不安を感じていな

いのかもしれない。過去の卒業生も選択してきた進路だと、卒業後の生活も想像しやすい。その時と社会が変化していることも同じようにわかっているのに、前例にばかりとらわれていることがある。

ところが、冒険しようと思う生徒は心配になる。確かに親心のような気持ちであろう。しかし普通に進学しようとしている生徒の心配は？ 先のことは誰にも分らないのに。これまで通りであれば安心というパターンに陥っていることはないだろうか。それでは変化に対応できない。私たちは、安心の裏にある思い込みを意識することが大切になる。

私はこう思うようにしている。

「今の生徒たちに先生方がいるように、生徒たちは高校を卒業しても一人きりで生きていくわけではない。生徒たちは新たな人間関係を築き、その中で支えられて生きていく。少し肩の力を抜きながら、生徒の今思っていることを聞きたい。自分の一定の思考の枠組みに沿って、これは大丈夫、これは心配と判断しないようにしよう。社会も生徒も変化する。生徒の周りには様々な人がいて、複雑に作用し合いながら生徒の人生が進んでいく。たとえ失敗しても、すべてが経験となって人生は続いていく。自分に生徒の人生を決めることはもちろんできない。ただ、誰とでも組める力、人間関係を築く力は必ず必要になることは言っておきたいと思う。」

そういう心持ちで、視野を狭くせず、進路の相談をしていく。

福岡市では「年次研修」というものがある。1年次、2年次、そして3年次のメインは「異校種体験研修」である。このことは先生方にも昨年お話しした。実際に3名の小中の先生が本校に研修で来校したからである。この3年次研修は2日間になる。以前は、そのうち1日は特別支援学校または学級の体験をすることが悉皆であった。今は、異校種なら OK ということになっている（受け入れのキャパの問題）。

本年度も2名の福岡市の先生から申し込みがあっている（原北中・日佐中）。先生方は私がいるからと思うかもしれないが、そうではない。先生方のおかげである。それが評判になるからである。基本、授業見学が中心となるのだが、本校の雰囲気よさなども大きく影響したようである。これはまぎれもなく先生方の力である。この力は学校の評判を高めることにもつながっている。全員で広報活動をしていることになる。

このような評判は「勝負は一瞬」の原則になる。やはり本校の良さを知るのは、来てもらって感じてもらうことが一番になる。このことは先生方もわかっている。小さな出会いかもしれない、先生方に負担をかけているかもしれない、でも、こういう welcome なあたたかい学校であることは本校のマインドとしてあるはず。

実は、昨年本校に来た日佐中の3年次研修の先生方のおかげで、4月に私は日佐中で進路講演会をし、本日の初めての体験授業の参加にもつながっている。

ありがとうございます